

公益社団法人水戸青年会議所

2025 年度 理事長所信

公益社団法人水戸青年会議所
第 73 代理事長 加治 光教

スローガン

磨穿鉄硯

～強い想いをもち未来を創る～

基本理念

Have Strong Feelings

未来を想い行動できる人財による
国際都市水戸へ向けた政策

基本方針

- 1・人と都市活力が調和する都市水戸を見据えた
グローバル化への挑戦
- 2・未来を担う若きリーダーの育成
- 3・誰もが輝く持続可能なまちづくり
- 4・共感から得る組織基盤の強化
- 5・信頼された厳格な組織運営の確立
- 6・透明性のある組織運営の確立
- 7・想いを伝播させた組織ブランディングの向上

【はじめに】

「地域開発にともなう経済、社会問題の研究」「青少年問題と社会福祉問題の研究」「文化理解と国際理解」という3つの目的をもって、1952年に全国で50番目に水戸青年会議所が設立されました。

この72年間にわたり、「明るい豊かな社会」の実現という共通理念のもと、時代に先駆け社会課題を解決すべく様々な運動を展開してきました。この72年間という歴史の中で紡がれてきた想いや伝統を絶やすことなく継承するのはもちろんのこと、我々にしかできない運動をし、まちの未来を描き現実化させる必要があります。

私は、2016年に水戸青年会議所に入会させていただき、8年がたった今でも感動や興奮の連続です。これまで水戸青年会議所のメンバーとして、社業だけでは得られない、たくさんの経験をさせていただきました。たくさんの先輩諸兄姉のみなさまに、多くのご指導ご鞭撻、叱咤激励をいただけたからこそ今があります。そして、同じ時間を共有した多くの仲間もいます。入会し、たくさんの経験をしてきたからこそ知り合い、同じ苦楽を共にし、絆を深め、強い志のもと邁進してきました。青年会議所の一番の魅力はここにあると考えます。年齢や性別、職業や社会的背景の異なる青年経済人が同じ志を抱き、一つの目標に向かい運動を展開し、今まで経験したことのない環境や価値観に触れることで、自分の常識が当たり前ではなく広い視野で物事を見定める力が得られると。そして、青年会議所活動を通し強く感じたことは、一人では成し遂げられないことも青年会議所という組織の力で不可能を可能にできることです。

私は青年会議所活動において常に思っていることがあります。それは全ての活動において「楽しさ」を見出すことです。これは、強い志をもち本気で活動をすることで生まれる「楽しさ」であり、人の心を動かすことのできるものだと考えます。本年、我々は「楽しさ」を見出すことのできる青年経済人として仲間と共に失敗を恐れず挑戦してまいりましょう。

【人と都市活力が調和する都市水戸を見据えたグローバル化への挑戦】

我々は、国際都市水戸を目指し国際的な交流と連携を積極的に推進しており、ASPAC (Asia-Pacific Area Conference) の水戸への誘致を進めていますが、その開催意義や運営の負担を知る人は少ないはずです。であるならば、ASPACに参加するだけでなく、異文化交流やビジネスの機会を提供し、会員が国際的な視野を広げ、誘致を現実的なものにするのを支援していきましょう。また、インバウンド観光の促進により、水戸の観光資源を活用し、地域の魅力を世界に発信するシティプロモーションを展開してまいりましょう。国際的なネットワークを活用し、観光客の誘致を図ることで、地域経済の発展に寄与することができます。国際的な視点を持ちながら、地域の観光資源を最大限に活用し、持続可能な発展を目指して活動を続けてまいりましょう。

そして、観光資源の発掘と活用により、水戸の魅力を国内外に広めることで、地域の経済活性化を図ることができます。特に、インバウンド観光の推進を通じて、外国人観光客の誘致を目指し、地域の観光業の発展に貢献します。また、国際交流を深めることで、地域の多様性を高め、住民が国際的な視野をもつ機会を提供します。水戸青年会議所は、地域と世界をつなぐ架け橋としての役割を果たし、国際都市水戸の実現に向けて邁進していきます。

【未来を担う若きリーダーの育成】

水戸青年会議所では、未来を担う子どもたちの健全な成長を推進することを重要視しています。今年で第50回ちびっ子広場を迎える事業を通じて、子どもたちが広い視野を持ち、柔軟な発想を育む機会を提供してまいりましょう。これらの活動は、子どもたちの行動力を育て、将来的なリーダーとしての素質を養うことを目指しており、子どもたちが自ら考え、答えを出し、行動し、責任をもつという当事者意識を身につけるための環境を整えるべきと考えます。地域社会と連携し、子どもたちが安心して成長できる環境を提供することで、未来の水戸を支えるリーダーを育成していきましょう。また、教育やスポーツを通じたプログラムを展開し、子どもたちが多様な経験を積むことで、広い視野と柔軟な発想を身につけることを目指すことができ、地域の人々との交流を深めることで、社会性を育み、リーダーシップを発揮する力を養えます。水戸青年会議所として、子どもたちが将来のリーダーとして活躍できるよう、地域と共に育成の場を提供し、彼らの成長をサポートしていきましょう。

そして、青年会議所は、地域をより良くするための運動を推進する組織です。その運動の効果を高めていくためには、活動する会員一人ひとりの意識を高めていくことが必要不可欠です。会員一人ひとりが「なぜ・なんのために青年会議所に所属したのか」、目的意識を見据えることで、青年会議所が有する数多くの魅力を楽しむことができます。現実の生活の中では、どうしても家庭や社業を優先しなければいけない場面も存在します。その一方で、地域のため、家族のために想い、青年会議所で研鑽を積み、奉仕を実践する会員は、青年経済人としての学びと、自分の時間を有効活用することを両立するという、素晴らしい素質を等しくもっています。会員の立場はそれぞれですが、「なぜ・なんのために青年会議所に所属したのか」という想いに立ち返ることで、活動に意義と価値が生まれ、明確な目的意識を持ち活動していくことは、あなたの知識となり、あなたの力となり、あなたのためになります。青年会議所は、奉仕・修練・友情を経て、所属する会員が地域を牽引するリーダーへ成長する機会を提供してくれ、私たち一人ひとりがリーダーに成長することで、地域の更なる発展の「道しるべ」となるのです。青年会議所活動の中で、自身のやりがいを見出し、積極的な活動を通して成長していける組織を目指していきましょう。

【誰もが輝く持続可能なまちづくり】

公益社団法人日本青年会議所の定款にビジネスの機会が明記され、青年会議所がまちの経済を充実される責務を担っていることは明白な事実となりました。持続可能なまちを目指すうえで「経済成長」「社会的包括」「環境保護」は重要な要素となり、中でもビジネスの切り口から課題解決を行うことも重要だと考えます。つまり、まちの未来を描きまちの課題をビジネスに転換することでまちを持続可能にする仕組みを構築することが重要です。

ビジネスに転換することが可能な課題は、視点を変え未来を想像することで、自然と現在の問題点と課題が見つかります。多様なプロフェッショナルが在籍する青年会議所であるからこそ、一人ひとりのビジネスマインドを成長させスキルを高めることで、まちが必要としている課題を見出し、その解決に向けて行動していきましょう。

近年、青年会議所しかない時代から青年会議所もある時代になったと言われることがあります。これは、青年会議所がこの世に生まれた時と比べ、まちの課題を解決しようと様々な形で行動している団体が増加しているからです。そんな中、現在の我々の活動範囲である水戸と大洗のまちは人口減少や高齢化、そして近年急速に変化しているライフスタイルの多様化などにより人と人との関わりが希薄化してしまい、まちにかつての賑わいがなくなってしまう空洞化という課題を抱えています。これは賑わいだけでなく、まちの活力や楽しみの減少にもつながっていると考えます。まちの空洞化という課題は様々な要素が絡み合い複雑化しているため、単年度で解決していくには限界があります。そこで、我々がまちの課題を解決していくためにどのようなことを行う必要があるのか考え、まちの未来と我々自身の未来をデザインし行動に移す必要があります。そのためには、様々な団体と手を取り合うことで生まれる相乗効果により、運動を大きく波及していくことが最も効果的であると考えます。そして、この機会に創出された絆は今後も強い力となるに違いありません。我々がまちづくりの起点となり起こす行動が、誰もが輝くやさしいまちへと導くことができると確信しています。

さらに、その影響力からより多くの人々に当事者としての自覚を促す好循環を生み出していきましょう。

【共感から得る組織基盤の強化】

40歳で卒業を迎える青年会議所において、会員拡大活動は常に必要不可欠です。水戸青年会議所はコロナ禍においても担当の会員拡大のメンバーの功績により一定数の会員拡大に成功していますが、組織として経験豊富な多くのメンバーが本年で卒業を迎えられます。しかしながら、近年の全員拡大という意識の醸成もあり、メンバーが個々ではなく組織として持続的に会員拡大に取り組む意識が芽生えてまいりました。本年度はこの会員拡大をさらに推し進め、メンバー一人ひとりが会員拡大の当事者になることが必要です。会員拡大は、我々の事業に一番の理解を得ていただけた市民の獲得とも同等であり、青年会

議所運動をこれまで以上に強く推し進めることにもつながります。そして、明るい豊かな社会に向かい前進している我々と共に活動をしていけば必ず成長があります。切磋琢磨できる同士を増やし、成長の機会を提供してまいりましょう。

【信頼された厳格な組織運営の確立】

新型コロナウイルスの影響によりそれまで当たり前だったことが当たり前ではなくなるなど、私たちの生活は急激に変化しました。青年会議所においても組織運営を継続するためにWEBを取り入れて新しい形の会議や非対面型事業の実施などいかなる状況でも活動、運動を行ってまいりました。しかし、デジタル技術の発展により便利になった一方で、直接的な人との対話や身体的な交流の機会が減少し、コミュニケーションや共感、信頼の醸成などが薄れてしまったことも事実です。組織にとってコミュニケーションや共感が必要不可欠であり、顕在化しないような小さなルールを守らない行動も、その積み重ねはやがて組織を弱体化させます。我々は市民から必要とされる組織となるために、規律を意識した厳格な諸会議や組織運営を行うことが求められており、そこから生み出される効果の高い事業と会員一人ひとりが能動的に活動できる環境の構築を後押しする体制が確立されることで、より効率的な組織運営につなげることができます。また、情報共有を行い、各委員会と密に連携をとり横のつながりを強固なものとするだけでなく、組織の活動に積極的に関与することで、個々のメンバーが組織の一員としての誇りを感じ各種事業への参加参画意識を高められ、組織の結束力はより高まり、個は唯一無二の存在になり、組織は類ない存在となると考えます。

【透明性のある組織運営の確立】

公益社団法人格を有する団体として、コンプライアンスの徹底と明瞭な会計、健全で透明性のある組織運営を行うために管理体制や内部統制を強化し、持続可能な社会的な公益を実現する組織として活動するため組織の価値が増大することを目指します。課せられた担いを自主的かつ的確に遂行しながらも、より良い組織へと成長するよう責任と自覚をもって、新しいアイデアや、効率の改善など、組織の成長と発展のため主体的に時代に合わせた組織運営に努めてまいりましょう。

また、2014年に法人格を移行してから10年が経ちました。しかし、メンバー一人ひとりの公益社団法人についての知識や認識は確かなものでしょうか。将来を見据え、組織運営だけに留まらず、より一層の知識を高め、一人ひとりが社業にも活かしながら青年会議所運動を行っていく事業を展開してまいりましょう。

【想いを伝播させた組織ブランディングの向上】

水戸青年会議所が72年にわたり存続し運動発信が出来ていることは、歴史を紡いでこられた先輩諸兄姉が積み重ねてこられた運動によるものです。また、出向者の輩出により

各方面で活躍してこられたメンバーが学びや経験を積み重ね、努力をされてきたことにより今の組織があります。出向者個人の成長は LOM の成長につながり、ひいては水戸の発展につながるものと思います。だからこそ、LOM の代表者として出向をされるメンバーのために、我々は一丸となって下支えをし、諸大会においても勇姿を目に焼き付け心をよせてまいりましょう。そして、出向者には LOM の代表者として誇りを持ち、それをフィードバックしていただけるよう最大限の支援を行ってまいりましょう。

また、広報活動というものは、単に青年会議所の運動を発信し、集客するために活用するものではありません。私たちの愛するまち水戸をより良いまちへと変えていくためには、我々の運動が水戸市民からの共感を生み、共創することが必要不可欠です。それらに対する想いを発信することでその想いが市民へと伝播し、意識変革が起こり、まちの発展へとつながることこそが広報活動で最も大切な役割であると考えます。また、情報通信技術の著しい進化に伴って情報発信ツールは多様化し、私たちも SNS、WEB やメディアを活用していますが、情報過多の時代となった今、興味関心を持たない人へ情報を届けることは困難です。

そこで本年度我々は、独自の視点や斬新なアプローチをもつ情報は、人々の関心を引き付ける可能性が高く、オリジナリティを追求し、情報を届けたい人々の特定のグループや興味関心を絞り込み、ターゲティング、コンテンツの質の向上など、様々なアプローチを組み合わせることで情報のリーチを向上させ、今まで実践してきたことを自ら評価・分析を行い、より効果的な方法を求めて挑戦していくことで今まで以上に多くの人へ青年会議所の魅力を届けることが可能となり、ひいては水戸青年会議所のブランディングへとつながっていきます。一人でも多くの市民に魅力ある団体であると感じていただき、信頼を高められるような組織としての広報活動を図ってまいりましょう。

【おわりに】

私の青年会議所活動の中で一番の転機は、2023 年に出向させていただいた、公益社団法人日本青年会議所の総務委員会でした。総務委員会では、各会議の設営や運営、それに伴う資料作成はもちろんのこと、全ての議案に目を通し、会議体、委員会と共に、よりよい事業になるよう尽力させていただきました。たしかに、時間や体力的な辛さはあったかもしれませんが、議案が可決し事業が成功して報告議案が上程された時には、気持ちが高揚したことを覚えています。そしてなにより、委員長をはじめ、全国から出向してこられた全員と苦楽を共にし、支え合って過ごしてきた時間と関係は、今ではかけがえのないものです。それも強い想いをもち活動したからこそ得られるものと確信しております。

そして、和而不同という言葉があります。意識すると「人と協力することはあっても、人の意見や態度にむやみやたらに同調することはない」という意味です。私はこの言葉を「一人ひとりの想いが融合し、共に成長していくこと」と定義します。水戸青年会議所においても、ビジネスにおいても、他者との関わりは避けることのできないものであり、良

質な関係は人生における大切な宝となります。しかしながら、相手の言うことなすこと全てに賛同する馴れ合いの関係ではいずれ行き詰まり、関係そのものが破綻しかねません。だからこそ、協調すべき部分は協調し、時には主体性をもって意見し合える、生涯のパートナーとして良質な関係を築き、互いが成長していくことが Jaycee としてのあるべき姿です。

強い想いをもち行動し、ひとやまちを捲込み、共に未来を創ってまいりましょう。